

《審判上の確認事項》

(令和4年度 JA 共済 第6回ジュニアバレーボールフェスタ 各地区対抗6年生選抜大会)

沖縄県小学生バレーボール連盟 審判委員会

2022年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。

但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。また、本大会はテクニカルタイムアウトを採用する。第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが11点目に達したとき、第3セットは、リードするチームが8点目に達したときにセカンドレフェリーのホイッスルにより30秒間のテクニカルタイムアウト（給水の為のタイムアウト）が適用される。

- (1) トスは、両チームのチームキャプテンが立ち会いのもとに行う。
- (2) 子どもたちの善い行いに対してはフェアプレー精神の育成のため、積極的にグリーンカードを出して下さい。※競技参加者は、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。
- (3) 監督はスコアラーステーブルに最も近い位置でベンチに座り、ラリー中はベンチに座っていなければならない。ラリー終了後、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で指示を出すことができるが、みだりに監督が立ち上がったたりする行為を許容するものではない。過度に目的を逸脱した行為に対しては、競技規則第21条により適切に処置する。
- (4) テクニカルタイムアウトは、選手の健康と安全に配慮して給水をさせなければならない。選手は、ベンチ横のフリーゾーンに集まり、給水を行う。※ベンチスタッフは健康観察を目的に選手の近くに行き、話しをすることはできるが、作戦上の指示は出せない。
- (5) タイムアウトの要求には必ずハンドシグナルを用いること。また、選手交代については、交代選手がサブスティテュションゾーンに入り、速やかに交代を行うこと。(試合中においては、常に3チーム以上の選手がコート内でプレーすること。) 他、今大会の競技規則に準じる。
- (6) プレー中でない選手はベンチに座っているか、チームのウォームアップエリアにいないといけない。
- (7) 試合中のレフェリーに対する質問は、ゲームキャプテンのみ行うことができる。監督は認められない。
- (8) 不法な行為（反スポーツマン的的行為や言動）に対しては厳正に処置する。(退場・失格)
- (9) 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて、ラリー終了後速やかに拭くこと。※各チームで十分な枚数のワイピング用タオルを準備すること。
コート外まで幅広く濡れた場合は、レフェリーが判断して指示するので、その指示に従い対応すること。尚、柄付きモップの使用は、タイムアウト・セット間、もしくはレフェリーが指示したときのみである。この場合は、ベンチにいる競技参加者が速やかに行うこと。(選手やベンチスタッフ、レフェリーに対してワイピングの要求をすることは、遅延行為の対象となることがある。)
- (10) 可能な限り各会場にコントローラーを配置するので、試合前の打ち合わせや確認を綿密に行ってください。試合中、ファーストレフェリーの決定は最終である。(ファーストレフェリーの判断で判定や取り扱い等の疑義等について、コントローラー・副審判長・審判長の意見を聞く事ができる。)

(11)レフェリーを行う際はレフェリーウェアを着用しなければならない。各チームでレフェリー(1st・2nd)、コートオフィシャルができること。

(12) コロナ感染拡大防止に伴う処置。

① レフェリーを行うチームは必ずマスクを持参(不織布マスクを推進)、ゴム手袋(ビニール手袋可)を着用する。試合終了後、レフェリースタンド・スコアラーズテーブル・得点掲示椅子・ラインジャッジフラッグを消毒し拭き取り、手指の消毒を行う。また、スコアラーズテーブルの筆記用具は各チームで準備すること。

② レフェリーのホイッスルはマスク(不織布マスクを推進)の中で吹笛する。各自で除菌シート等を活用し試合終了後にホイッスルの洗浄、消毒に努めること。(ホイッスルカバーも可。但し、選手やベンチスタッフ等と会話をする時は、マスクを着用すること。)

※電子ホイッスルの使用を可能とするが、会場により音が聞き取りにくい場合があるため、ホイッスルを使用することが望ましい。

(レフェリーの不織布マスク、ゴム手袋、消毒用アルコールは各チームで準備をお願いいたします。)